

《令和6年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和6年8月21日（水）

時 間：14：00～16：00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和6年度 第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化・知識向上

参加者：49名

阿南市内の福祉・介護従事者、阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

【病院見学】



阿南市内の福祉・介護従事者17名が参加し、3班に分かれて阿南医療センター内の見学を実施した。

阿南医療センター職員より、入院から退院までの流れ等について説明を受け、参加者は、改めて福祉・介護施設での対応を整理することができた。

【開催挨拶】



阿南市医療センター 緩和ケア内科部長・教育担当・病院長補佐 寺嶋 吉保 氏

【講義1：阿南医療センターの概要】

講師：阿南医療センター 看護副部長 森 数江 氏



阿南医療センターの概要や取組について御講義いただいた。

許可病床数 398 床、職員数 580 名（医師 46 名、看護師 290 名、看護補助者 42 名）、22 診療科で運営。付帯施設として、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所がある。

平均在院日数について、令和 5 年度は 13.8 日であったが、令和 6 年度は 4 月～6 月までで平均 12.8 日と短縮傾向にあり、日頃の医療と介護の連携の成果であると考えます。

地域連携室では、年間 6,000 件の地域医療連携予約診療の受付等を 3 名で対応。令和 5 年度には救急搬送の受け入れを 3,000 件行い、地域の核となって対応している。



【講義2：グループワーク】



グループワークでは、3つの項目（①トリプル制度改正（医療・介護・障がい）による困りごと・上手くいっていること、②制度改正に伴い病院・施設がゆずれないこと（報酬改定に伴い必要なこと）、③入退院に関して医療と介護の連携で上手くいっていること・いないこと）について話し合った。

【意見】

- ・制度改正について、再確認することができた。
- ・ケアカフェ等で顔と顔の見える関係づくりで連携が上手くいっている。
- ・お薬手帳にケアマネジャーの名刺を入れてくれていることが増え、以前より改善はしているが、入院時に担当のケアマネジャーに連絡をしておらず、医療側が時間を有することがある。
- ・医療と介護の連携を継続するためにもケアカフェ等の交流の場は継続して欲しい。
- ・困難な入院ケースも積極的に受け入れていただき助かっている。リハビリも積極的に行っていただき、在宅生活の復帰も安心できている。
- ・認知症患者のリハビリは意思疎通等ができなく万全の状態での退院しないケースもある現状を理解した上で、退院後の介護提供をして欲しい。

など

【総評】

阿南医療センターの見学は、多数の申込があった。実際の現場を見ることで情報共有がスムーズとなり連携強化に繋がった。今後も機会を設けて実施したいと思う。

講義について、阿南医療センターの組織体制や取組についてわかりやすく御説明いただき、「今まで敷居が高いと思っていたが理解したことで連携しやすくなった。」との声が聞けた。

グループワークではコミュニケーションを図ることもでき、様々な意見交換が行えた。

地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、今後も医療・介護従事者の課題把握に努め、専門性を高めるケアカフェを開催し、連携強化に繋げていきたい。



【研修会風景】



報告者:センター長 湯浅